

竹田市立直入中学校3年生のみなさんより

私は、牛が生まれてから出荷されるまでの時間が、育てる上で大変なことを今まであまり知りませんでした。でもお話を聞いて、お肉になる牛は9ヵ月ほどで市場に出され、母牛になるのも1歳ちょっとの牛なんだと知って、そんなに若い牛たちが頑張ってくれるから、私達はおいしいお肉を食べられているんだなと思いました。子どものように大切に育ててくれている方や、それを支えてくれる方に感謝だし、人とのつながりが大切な畜産は、すてきだなと思いました。

牛についての種類や一生、仕事に対しての思いを教えてください感謝しています。おかげで竹田の畜産や牛について理解できました。クイズのおかげで、牛が人とどう違う生き物なのかがわかりました。

僕が今日分かったことは、牛を育ててくれている人達に感謝するという事です。ほかにも、竹田市に日本一の畜産の方がいることや、牛は上の前歯がないことなどいろいろ知れました。

竹田の牛は全国で1位になったりと、大分県が誇れる牛ということがよくわかりました。全国で1位に輝いたことはすごいと思うし、そのおかげでいろんな人に知られるようになったおおいと和牛を大切に守っていくべきではないかと思いました。また、生産者の思いを聞いて、直入で農業などにかかわってみるのもいいなと改めて思いました。

僕は牛のことをあまり知らなかったもので、品種から一生涯までの様々な牛ことや地域のこと、自分が食べている肉がどこからくるのか、そして身近なところに「日本一」がいることなどが知れて良かったです。

僕は家が牛を飼っているけど、あまり畜産のことはよく知りませんでした。牛の種類とか、畜産をしていてよいことなどがよくわかりました。

私は、肉牛と乳牛の2種類がいることは知っていたけど、その中でも何種類もの牛がいて、知らない牛もいたので、いろんな牛がいてすごいなと思いました。私たちが普段食べている肉とか牛乳とかも、何年も育てて、いろいろな工夫もあって、おいしく食べることができるので、かかわっている全ての人に感謝したいと思います。牛の特徴とかを把握して、最上級のお肉をつくるのに、朝から夜まで一所懸命に育てた牛を、こうやって食べることができて幸せだなと思います。

僕は牛のことについては全然知らなくて、でも今日の授業で、牛が肉になるまでの流れや、牛を育てている人の気持ちがたくさん知れました。これからはご飯を食べる時に、もっと感謝して食べたいと思います。

一番驚いたというか、知れて良かったと思うのは、ヘルパーさんが月に3回、畜産農家さんの所を訪れて、農家が休むことができるということです。最近では、畜産を「行いやすく」しているのだなあと思いました。親が「コロナが収まったら焼肉に行こう！」と言っていました。これからは皆さんへの感謝を忘れず、お肉を食べて育ちたいです。

今日の授業で、今まで知らなかった大分の牛などについて勉強できたので、とてもよい機会になりました。私は牛を育てたことがないので、仕事の大変さや、育てる手順とかも全然わからなかったけど、少し詳しい部分までクイズなどを使って分かりやすく説明して下さったので、楽しく学ぶことができました。印象的だったのは、牛も双子ができる時があるということです。子牛とかとてもかわいいので、双子も見てみたいと思いました。

今日の郷土学の中で、強く印象に残ったことがあります。それは、農家さんのお話の中にあつた、牛に対する思いです。農家さんは飼っている牛を「自分の子供のように見ている」と仰っていました。このお話を伺うまで、私にとって牛の存在は、ただの動物に過ぎないものでした。でもお話を伺ってから、牛だけでなく、生き物にはそれぞれ決して軽くない命があるということを実感しました。

私たちが普段食べているお肉や牛乳などを生産するために、たくさんの方が関わっていることがよく分かりました。小学校の時も畜産について話を聞いたことがあったけれど、今回、改めて畜産について聞き、知らないことがたくさんあると今まで以上に感じました。私たちはまだ総合的な学習が始まったばかりで、最終的にふるさとについてどうまとめるのか分かりません。けれど、今回教えて下さったことを基に、これからしっかり取り組んでいきたいと思っています。

私は牛を飼っていて、牛のことが好きなので、今日の授業は楽しく学べました。農家の先生の牛の飼い方や、思いや、大事にしていきたいことなどが知れました。農業について詳しく教えてくれたり、クイズなどで楽しく学べることもできました。農家の先生と一緒に、やはり牛が死んでしまったり、病気になったりして悲しいこともあるし、母牛が元気な子供を無事に産んでくれたりしたら嬉しいし、農業をしていく上で、泣いたり笑ったりすることが多いと思います。私も将来、牛飼いをしたいと思っているから、動物を飼っている責任感を強く持って、畜産者として頑張っていきたいと思いました。